

当院における排尿ケアチームの活動について

～日常生活活動の差による膀胱留置カテーテル再挿入率の違いに対する検討と対策について～

○塚本浩平¹,海老原真樹²,藤井奈津子²,三重野絢²,宮久保裕子²,石井徳恵³

医療法人盡誠会宮本病院 1 機能訓練室,2 看護部,3 医局

【はじめに】

当院では平成 28 年より排尿ケアチームを編成し,活動を行っている.今回膀胱留置カテーテル(以下 BT)の再挿入率に着目し,日常生活活動(以下 ADL)の差による BT 再挿入率の違いについて検討した.また BT 抜去後に再挿入防止の為に排尿ケアチームや医師・看護師・理学療法士・作業療法士等(以下多職種)で対策の実施を行ったので以下に報告する.

【対象】

平成 28 年 5 月から平成 31 年 4 月までに介入した 76 人を対象患者とした.

【研究方法】

対象患者の ADL を評価し,自立群と非自立群に分けた.介入前後での評価の点数差・BT 再挿入率の違いを検討した.点数差は排尿自立指導に関する診療の計画書の評価結果を判定材料とした.点数は 0~20 点であり,点数が少ない程排尿自立機能が良好と判定した.再挿入率の算出は,介入開始から介入終了後 1 ヶ月の間に再挿入の有無を確認し,割合を算出した.その後非自立群に対して再挿入防止の対策を実施した.実施内容は,排尿ケアチームが評価結果を伝達し,多職種で立案した対策を確認・修正し,非自立群の ADL 改善に対して多職種が対策を実施した.実施期間は非自立群に対して排尿自立指導の介入終了後から更に 6 週間の再介入を行う事とした.また ADL を機能的自立度評価表(以下 FIM)にて評価した.FIM は 1~7 点の 7 段階 18 項目の合計 126 点で評価し,点数が高い程 ADL が自立という評価方法である.

【結果】

点数差は,自立群は平均 6.2 点の減少が認められ,非自立群は平均 2.3 点の減少が確認された.BT 再挿入率は,自立群では 0%,非自立群では 41.6%であった.対策実施前の非自立群の FIM の平均は 27/126 点であった.対策実施後の FIM 平均は 34/126 点であった.対策実施後の再挿入率は 33.3%に減少した.

【まとめ】

今回の検討で ADL 能力の低下に伴い排尿機能の低下を招く可能性が示唆された.また排尿ケアチームが多職種と連携し,問題に対して対策を立案し実施する取り組みが今後も必要であると考えられる.